

“KANAGAWA”

# 福祉タイムズ

2004 3 No.628

発行日 2004年（平成16年）3月15日  
毎月1回15日発行  
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2  
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会  
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302  
http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/  
編集発行人 清水勝夫  
定価 100円（郵送料込）  
印刷所 神奈川新聞社  
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「ここは強い味方です」柳沼和子さん(右)は3年前から1人暮らしを始めたが、外出時は鍵の開閉を近所の方に頼まなければならない、「かながわ自助具工房」(かながわ県民センター13階)に相談に来た。以来、車いすからコインやハンカチを拾えるリーチャーなど、自分に合う様々な自助具を作ってもらっている。「一番嬉しかったのは、大きな鍵ホルダーを作ってもらい自由に外出できるようになったこと。自助具を上手く使うことで、いろいろな束縛から解放されていくようでとても楽しい」と嬉しそうに話す。(写真・文 菊地信夫)

## あんぐる

今年も韓国をはじめとするアジア七カ国の研修生がまいりました。全社協・国際社会福祉基金委員会が窓口で、全国の高齢者・障害者・児童福祉施設などへ研修に入ります。私も施設にも、韓国より朴昭妍さんが来られました。来日間もないのに関わらず、流暢な日本語で、皆に挨拶していたのには驚きました。

この研修の良いところは、我が国の福祉実情が解るだけでなく、母国の福祉向上に向け、「人」という土壌が作られることではないかと思えます。

彼女は福祉のみならず、食文化を含む生活習慣など、何でも理解しようとする様子が見られ、素晴らしい研修成果へとつながるものと感じていきます。常に明るくて素直であり、先進国の福祉を学びたいという大きな夢に向かって、積極的に取り組む彼女の姿は心を打つものがあるとともに、私も施設の職員にとっても大きな刺激となっています。

研修生が日本で多くのものを学び、倫理観の涵養、そして福祉の担い手としての意識の高揚が図られることはこの上ない喜びであり、母国に帰った後、福祉の中心人物として活躍されている彼女の姿を夢みているところです。

共楽荘施設長 阿部秀昭

### 目次

適合のためのシステムづくりと連携のあり方	2・3
16年度県福祉部予算(案)の重点・新規事業	4
16年度横浜市・川崎市予算(案)の主要事業	5
第42回社会福祉研究発表大会を開催	6
かながわ長寿社会開発センターいきはつらつ	7
連載・心のゆたかさははぐくむ(最終回)	10・11